

短 報

学生部 2011 年度活動報告

「適切な学びの環境の実現」に向けた 4 年間の取り組み

小林 真朝¹⁾ 中村 綾子²⁾ 梶井 文子³⁾ 蛭田 明子⁴⁾ 大坂和可子⁵⁾ 安田みなみ⁶⁾
 相原 令奈⁷⁾ 後藤 千恵⁷⁾ 山口保菜未⁷⁾ 川野 嘉子⁷⁾ 安部 克憲⁸⁾ 平澤 洋美⁸⁾
 高橋 孝⁸⁾ 望月 優加⁸⁾ 高柳 元気⁹⁾ 稲田 昇三¹⁰⁾ 天岡 幸¹¹⁾ 菱田 治子¹²⁾

Student Affairs Section FY2011 Activity Report: The Four-year-Approach for a Suitable Learning Environment

Maasa KOBAYASHI, RN, PHN, MNS¹⁾ Ayako NAKAMURA, RN, MNS²⁾ Fumiko KAJII, RN, PhD³⁾
 Akiko HIRUTA, RN, CNM, DNSc⁴⁾ Wakako OSAKA, RN, MNS⁵⁾ Minami YASUDA⁶⁾
 Reina AIHARA⁷⁾ Chie GOTOH⁷⁾ Honami YAMAGUCHI⁷⁾ Yoshiko KAWANO⁷⁾
 Katsunori ABE⁸⁾ Hiromi HIRASAWA⁸⁾ Takashi TAKAHASHI⁸⁾ Yuka MOCHIZUKI⁸⁾
 Haruki TAKAYANAGI⁹⁾ Shozo INADA¹⁰⁾ Miyuki AMAOKA¹¹⁾ Haruko HISHIDA, MA¹²⁾

〔Abstract〕

In 2008, the Student Affairs Division of St. Luke's College of Nursing launched an initiative to encourage students to acquire appropriate communication skills and basic manners. For the past three years, the committee for the improvement of students' manners has implemented a program called "Establishing a suitable learning environment". In the first year of the program, the main objective was to disseminate information about the committee's activities. In the second year, the committee began promoting the improvement of students' communication skills and basic manners, and in the third year, the committee continued and enhanced these activities. In the fourth year, 2011, the committee has worked to firmly establish its activities. The actual activities undertaken this year were: promotion of the exchange of greetings on a daily basis and also on sports day, implementation of public relations at the school festival, a campaign for collecting plastic bottle caps, carrying out locker-room clean-up activities, and improvement of students' manners in using the library and PC rooms in cooperation with the students' library committee and the information system committee.

As a result of this four-year program, the committee has achieved the solid improvement in students' manners, empowerment of the committee members, and strong support for autonomous student action from the faculty and staff.

〔Key words〕 manner awareness, appropriate communication skills, learning environment, committee for the improvement of students' manners

-
- 1) 聖路加看護大学 地域看護学, 学生部 St.Luke's College of Nursing, Community Health Nursing
 2) 聖路加看護大学 看護管理学, 学生部 St.Luke's College of Nursing, Nursing Administration
 3) 聖路加看護大学 老年看護学, 学生部 St.Luke's College of Nursing, Gerontological Nursing
 4) 聖路加看護大学 母性看護学, 学生部 St.Luke's College of Nursing, Maternal Infant Nursing and Midwifery
 5) 聖路加看護大学 成人看護学, 学生部 St.Luke's College of Nursing, Adult Nursing
 6) 聖路加看護大学 学部 4 年 St.Luke's College of Nursing, Nursing Student, Class of 2012
 7) 聖路加看護大学 学部 3 年 St.Luke's College of Nursing, Nursing Student, Class of 2013
 8) 聖路加看護大学 学部 2 年 St.Luke's College of Nursing, Nursing Student, Class of 2014
 9) 聖路加看護大学 学部 1 年 St.Luke's College of Nursing, Nursing Student, Class of 2015
 10) 聖路加看護大学 総務課長, 学生部 St.Luke's College of Nursing, Administration & General Affairs Section, Manager
 11) 聖路加看護大学 総務課, 学生部 St.Luke's College of Nursing, Administration & General Affairs Section
 12) 聖路加看護大学 英語, 学生部長 St.Luke's College of Nursing, English

2011年11月9日 受理

〔要旨〕

聖路加看護大学学生部は、2008年度より「適切な学びの環境の実現」と題し、適切なコミュニケーションと基本的マナーの習得のための取り組みを行ってきた。初年度は、活動の周知、2年目は学生の行動変容、3年目は活動の継続と充実を目的に活動し、4年目となる本年度は、活動の定着化を行った。具体的には学生マナー向上委員会の継続的活動、体育デーにおける挨拶活動とマナー大賞の選定、白楊祭での壁新聞による広報、ペットボトルキャップ収集キャンペーン、個人ロッカー室の美化運動、図書館やパソコンルームの利用マナー向上を目指した学生図書委員会や学生情報システム委員会との連携が計画された。

「適切な学びの環境の実現」を目指した4年間の活動のアウトカムとして、マナー課題の解決、マナー向上委員会のエンパワメント、教職員による大学の教育上・生活上の課題に対する学生の主体的取り組みを支えるプロセスの構築が考えられる。

〔キーワード〕 マナー、適切なコミュニケーション、学びの環境、学生マナー向上委員会

I. はじめに

聖路加看護大学学生部は2008年度より、「適切な学びの環境の実現」と題し、適切なコミュニケーションと基本的マナー習得のための活動を学生と共にやってきた。この活動に取り組み始めた背景には、授業や実習中にみられる学生の不適切な態度、共有スペースの使用におけるマナーの低下が、本学でみられるようになっていたことにある。そこで、学園生活の中で適切なコミュニケーションとマナーを養い、適切な学びの環境を学園全体で醸成することを目的に、本活動を開始した。その結果、初年度は学生部の教職員が主導で取り組んでいた活動も、4年目に入り、「マナー向上委員会」の学生が主体となって取り組む活動へと発展してきている。

以下に、今年度の活動報告と共に、4年間の活動を総括ならびに評価する。

II. 本年度の目標及び活動計画

1. 初年度から3年目までの目標

「適切な学びの環境の実現」に向けて、本活動は初年度より次のような目標を掲げて取り組んできた(図1)。具体的には、初年度は、新しい取り組みを学生・教職員に周知し、コミュニケーションやマナーについて考える機会をもってもらうこと。2年目は、適切な学びの環境の実現に向けた行動変容がみられるようになること。3年目は、活動の継続と活動のさらなる充実がみられることであった。

この3年間の活動を振り返ると、「適切な学びの環境の実現」に向けた取り組みは本学の学生・教職員に一定の認識と理解を得られており、学内行事における挨拶運動や、マナー大賞・マナー新聞は学園に恒例のものとなっている。こうした定期的なマナーの啓発は、適切な学び

の環境実現のため、微細ではあっても個々の行動変容につながっていると考えられた。

2. 4年目の活動目標と活動計画

そこで4年目となる今年度は、適切なコミュニケーションを図り、学園生活を快適に過ごすためのマナーの定着化に重点をおき、活動することとした。具体的には、「体育デー」における挨拶運動及びマナー大賞の選定、白楊祭におけるマナー向上委員会の活動を伝える壁新聞づくり、ペットボトルキャップ回収、個人ロッカー室の美化を促すメールの定期的な配信、図書館やパソコンルームの使用マナー向上に向けた、図書委員会及び情報システム委員会との連携を継続・強化することを計画した。

III. 本年度の実施内容と評価

2011年6月1日(水)に開催された体育デーでは、昨年同様に開始前30分を利用して、マナー向上委員会および学生部教員がマナーリボンをつけて玄関に並び、参加する学生を挨拶で出迎える「挨拶運動」を実施した(写真1)。体育デー競技中の応援のマナー違反があった場合にはマナー向上委員が声をかけ、応援マナーの向上を図った。また、体育デー競技中の応援、ゴミの分別、挨拶、試合開始時間の集合時間を守るなどのマナーがよかったチームには「マナー大賞」を選定した。今年度は、新たにマナー大賞には賞品を授与した。賞品は、マナーリボン(写真2)とマナー向上委員会のメンバーが提案した標語を入れたマグネット(写真3)と小菓子であり、学生に好評であった。体育デー終了後はゴミの片付けなどの手伝いを行った。ペットボトルのキャップの分別方法の周知には課題が残ったが、昨年からの課題であった学生応援席のゴミ放置や会場のごみ箱のあふれるような状況

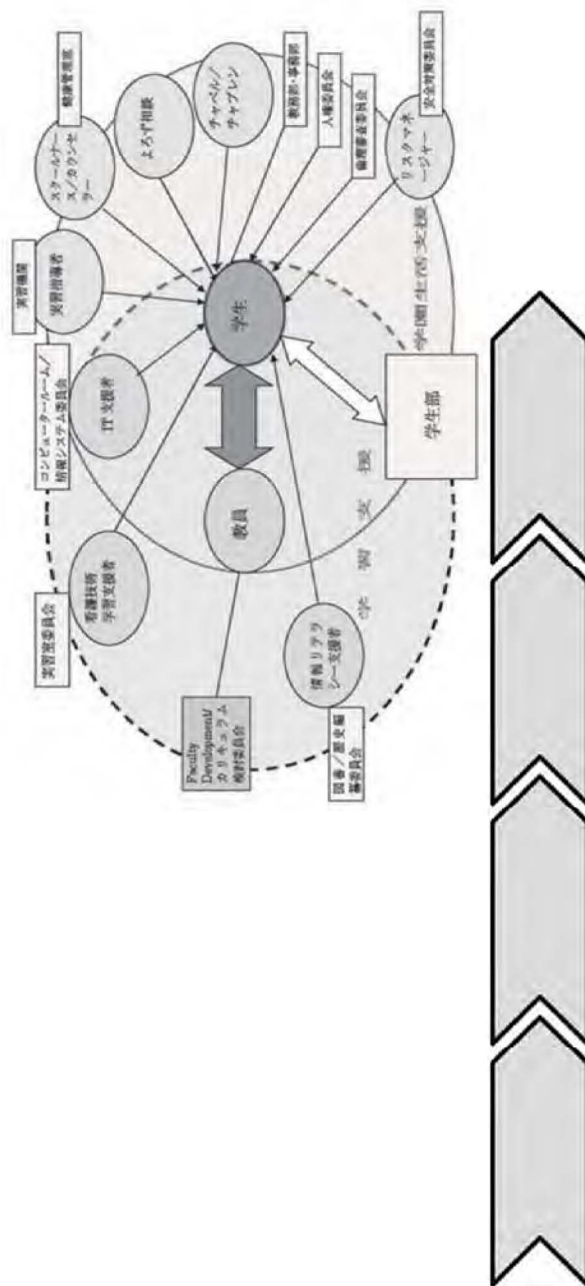


図 1 2008-2011 年度 学生部の活動と「適切な学びの環境の実現」に関する取り組み



写真1 体育デーにおける挨拶運動の様子



写真2 マナーリボン



写真3 標語を記したマグネット

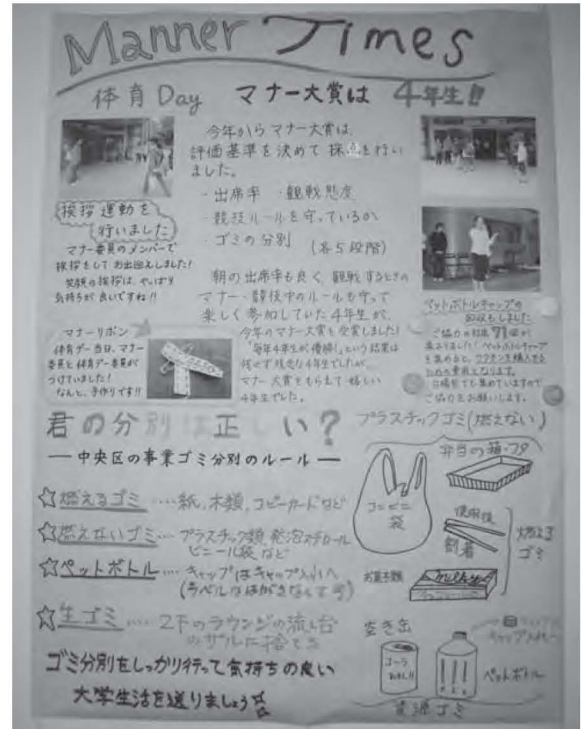


図2 白楊祭においてマナー向上委員会の取り組みを伝える壁新聞

は改善された。これらは開始前や試合中のマナー向上委員会メンバーの声かけの効果と考えられた。

2011年11月5日(土)、6日(日)に開催された白楊祭では、より多くの学生に日頃のマナー向上委員会の活動を伝える壁新聞を作成し掲示した(図2)。

さらに継続的に実施している2階ラウンジの自販機横のペットボトルやキャップの回収は、学生に周知されてきている。今年度は、個人ロッカーの美化を促すメールの定期的配信や掲示を強化してきた結果、以前に比べ個人ロッカー周辺の美化が徹底されつつある。また図書館やパソコンルーム内での飲食禁止などのマナーについても、マナー向上委員会が中心となり学生へ自主的に啓蒙活動を行うと同時に、図書委員会や情報システム委員会との連携が図られつつある。

IV. 4年間の活動の評価

2008年度より学生部活動報告として、「適切な学びの環境の実現」に対する取り組みを記してきた^{1)~3)}。初年度は、大久保暢子(准教授・前学生部)が主導し活動目標、計画を立てるとともに、学生有志を募りマナー向上に取り組む活動を始め、学園内におけるマナー向上に向けた取り組みの認知を広げた。次年度は、行動への移行を促し、3年目は活動の継続と充実を図り、最終年度は、行動の定着化を進めてきた。これらのアウトカムを3つの視点から述べる。

1. 学園におけるマナー課題の解決

忘れものの件数(表1)、コンピュータールーム使用中の飲食など、改善すべき課題も残るが、体育デーにおける取り組み、図書館・パソコンルームの使用ルール、個人ロッカーの環境整備、2階ラウンジの使用状況について、それぞれ改善がみられた。

これらは、これまでの活動が、「マナー」という視点で物事や日常を捉えなおす好機となり、さらに学園全体としての学生・教職員の意識と行動変容に働きかけ、課題の改善につながった点で、本活動のアウトカムとして評価できると考える。

表1 忘れ物(引き取られないままの物)の年度毎の件数

年度	2008	2009	2010	2011
件数	253	261	267	169*

* 2011年度は4月から10月までの数

2. マナー向上委員会メンバーのエンパワメント

前年度の活動の踏襲に留まらず、今後いかに活動を充実させ、学園の適切な学びの環境を築き、維持・増進していくかという視点で、大学全体に貢献するべく取り組んだマナー向上委員会メンバーの成長もアウトカムとして挙げられる。多忙な学業の中で多学年にわたるメンバーが定期的に参集し、効率的に話し合いを進めていくことは容易ではないが、グループダイナミクスを最大限に生かして、各メンバーがその能力を発揮し、当初の目標に立ち戻りながら意義ある活動を進められたことは大いに評価できると考える。話し合いのプロセスでは、活

動の費用対効果やその維持性についても検討課題として挙げる事ができており、長期的な視点をもって活動を検討することができていたことも評価に値する。

また、マナー向上委員会の活動は当初、「ゴミは分別しましょう」というように、マナーに反する行為に対し、行為そのものを止めるよう呼びかける活動が中心であった。このような活動はマナー向上のために活動するマナー向上委員会の学生自身も、息苦しさを感ずってしまう可能性をはらんでいた。しかし 4 年目となる現在、同じゴミの分別問題に対しても、ゴミの分別方法をゴミ箱の前に分かりやすく表示するなど、マナーに反する行為が生じる背景を探り、原因となっている事象を見出し、誰もがマナーを守ることができるような環境やシステムを作り上げる活動へと変化してきている。

マナー向上委員会の活動は 3 年にわたり、活動の初年度は 2 年生だった学生たちも、4 年生となり間もなく卒業の時期を迎える。この間、マナー向上委員会の知名度は高まった。特に 3 年生以下の学生たちにとっては、マナー向上委員会の存在と「適切な学びの環境の実現」に向けた取り組みは、入学時から存在していたものでもあり、学園生活の一部となっていると考えられる。今年度は活動当初にみられていたコミュニケーションやマナーに関連する問題は見受けられず、マナー向上委員会においても、次の活動は何に重点を置くべきか、探すような状況になりつつある。そういった意味では、マナー向上委員会の活動の一部は発展的な解消がなされているといえるかもしれない。

今後、実践の場に進んだ後も、状況・環境改善という視点と関係者を巻き込んで活動を進めていく行動力とを持ち合わせた看護活動に取り組むことが期待される。

3. 学園全体としてのアウトカム

本活動は当初は学生部が主体となり、有志の学生と共に行ってきた活動である。授業中の私語や教室の環境に関しては、学生間の声掛け等にもみ頼らず、ファカルティミーティング等の場で、適宜、教職員の介入も求めるようにしたことで、学園が一丸となって「適切な学びの環

境の実現」に取り組む姿勢を学生に伝えることができた。と考えるが、大学の教育上・生活上の課題を教職員が主導的に解決・改善するのではなく、学生が主体となり、学生が自己解決能力を高めるのを支え合うという姿勢で関わり、課題の解決・改善と一緒に向き合ってきたプロセスは、本学の教育における 1 つのアウトカムと捉えることができるのではないかと考えられる。

V. 今後に向けた課題

本活動は 4 年目を迎え、これまでを振り返っての評価をすることができた。しかし、大学において「適切な学びの環境」は維持・向上すべきものであり、今後の継続的な活動が期待される。既に活動のコアとなる学生主体の組織ができているが、大学というコミュニティはそのメンバーが常に入れ替わり、活動を維持していくことは容易ではない。また大学のメンバーの価値観や認識も変化していく中で、新たな課題にどう向き合い、どのように活動を継続し、その成果を維持していくかが課題となっていくと考えられる。

今後の活動のあり方は、マナー向上委員会のメンバーに委ね、学生部は引き続き、委員会からの要請に基づき、活動に対する助言やマナー向上委員会と大学教職員との連携を支える役割を担っていくことで、学生主体の活動を支援していきたい。

引用文献

- 1) 大久保暢子他. (2009). 学生部 2008 年度活動報告「適切な学びの環境を目指して」、聖路加看護大学紀要, 35 (1), 110-117.
- 2) 大熊恵子他. (2010). 学生部 2009 年度活動報告「適切な学びの環境を目指して」、聖路加看護大学紀要, 36 (1), 32-37.
- 3) 中村綾子他. (2011). 学生部 2011 年度活動報告「適切な学びの環境を目指して」、聖路加看護大学紀要, 37 (1), 47-52.